

県内事業所に導入促す

高校生や大学生が事業所で就業体験するインターンシップを支援する動きが徳島県内で広がってきた。雇用のミスマッチによる若者の離職防止に有効とされるが、中小・零細事業所の多い県内では二の足を踏むところも少なくない。このため労働関係団体や経済団体が制度を理解してもらうセミナーなどを企画し、組織を挙げて導入を働き掛ける。

学校関係者などによる開いた。約50人が参加と、インターンシップはし、インターンシップを生徒らが興味や関心を持つ通じた職場活性化や後継つた仕事を体験できる機会育成についての講演、会として人気が高い。し事例報告に熱心に聞き入かし従業員が少ない小規模事業所では、対応する施設管理やイベント企画など十分な確保画などを手掛けるネオビできないのが実情。導入エント(徳島市)の藍原に消極的だったり、受け理津子社長(43)は「中小入れたとしても業務以外企業の良さを発信できるの雑用をさせるだけで終機会と再認識できた。会わったりするケースがあ社と学生の双方にメリッリ、受け入れ先の開拓がトがある」と話す。

課題となっている。労福協は「地元の事業

この状況を打開するた所への関心や愛着が生まれ、県労働者福祉協議会れ、若者の徳島定住にも(労福協)は2月、徳島つながる」と指摘。近く市で事業所や大学、高校導入を呼び掛けるパンフの進路担当者を対象にしレットを事業所に配布すた推進セミナーを初めてる。将来は各種団体と連

労福協 セミナーやパンフ配布

重ね、機運を高めていく方針だ。

学校現場の期待は大きい。富岡東高校(阿南市領家町)では毎年、商業科2年生全員が3日間の

携し、生徒・学生向けのインターンシップ参加専用ホームページの開設も検討している。

また県中小企業家同友会はインターンシップ普及に向けた勉強会を計画でインターンシップをす中。現在、会員の約20事業所が導入しているが、状や厳しさを知る機会にあくまで個々の事業所が独自に行っている状況。の解消になる」と訴えて今後は会として勉強会を



インターンシップのメリットや先進事例について説明を受ける事業所の代表者ら(徳島市)